

## 葉集を読む

松岡 隆子

然したることもなく一日が暮れようとしている。体の具合が悪いわけでも悩みがあるわけでもないが何となく気怠く物憂い。朦朧たる春の夕べ、ふと何処かで何かが鳴いたような気がする。こんな時に亀の声が聞こえるのかもしれないと耳を澄ましている鈴木さんであろう。

シエパードと女住む家鳥若葉

三宅まどか

残業も旅行も無くて子猫飼ふ

西島 美晴

新型コロナウイルス感染症の蔓延が続いた時期、葉誌でもコロナを詠んだ作品が見られたが、その多くはコロナ、ウイルス、マスク、自粛、ステイホームなどと直接的な言葉を使ったものだった。掲句は〈残業も旅行も無くて〉とやんわりとコロナ禍の現状を表現していて感心した。そこで子猫を飼うのだという締めも心憎い。じゃれついて遊ぶ子猫の愛くるしさに鬱々とした心が癒されてゆく。

亀鳴くや然したる事の無き日暮

鈴木 富代

同時作に〈亀鳴くといふ日の水の匂ひけり〉がある。〈亀鳴く〉というのは俳諧味のある季語であり、亀には声帯など鳴くための器官がなく実際には鳴かないことを知ったうえで、いや鳴くかもしれないなどと思ってみるのが俳人である。

鳶の絡まる白い洋館、そこにはシエパードと一人の女性が住んでいる。何か物語の始まりを思わされるような句である。キーワードはシエパード。シエパードは狼に似た精悍な犬で、頭が良く運動能力が高く警察犬や災害救助犬等としても役立つ。シエパードを愛犬としている女性とは、恐らく頭脳明晰で容姿端麗な女性に違いない。麻葉取締官？ 税務調査官？ 「いえいえ、ふつうの方です」と一笑に付されそう。思い切りの良い省略に想像の余地が広がり魅力のある作品になっている。

花冷や「死者の奢り」を読みしころ 堀 すみ江

前月号の編集後記は二人の筆者が大江健三郎氏のことに触れていた。その一つは友人のご夫君が高校大学の後輩であった大江健三郎氏を大学医学部の死体保管室に案内したことから、『死者の奢り』が生まれたという話を聞いて驚き感動したというものだった。それを読んで私も驚き感動した。そんなとき掲句に出遭った。もしかしたら後記の筆者の友人というのは堀さんではなかるうかと思った。堀さんはいま『死者

の奢り』を手に輝かしい青春時代の思い出に浸っている。花冷の『死者の奢り』は、3月3日に死去した大江氏への弔句に他ならない。

今日のこと先づは雛に伝へけり

小泉 恵子

組み立てた雛段に赤い毛氈を敷き雛人形を飾る。冠や烏帽子を被せ扇や太刀を持たせ、内裏雛は一番上の段に、次の段は三人官女、五人囃子、右大臣に左大臣と順番に飾ってゆく。段飾りが整った雛の間の華やぎに座っていると、母や祖母や同胞がいた子供頃の頃にタイムスリップしたような気分になる。出先から帰るなり「今日はね」と雛人形に話しかける。同時作に〈雛飾り家族ふえたる思ひかな〉がある。雛の灯がほのぼのと温かい。

それぞれに名札新し菖蒲の芽

見上 恵

見たままの景で特に目新しい発見があるわけではないが、菖蒲の芽ゆえに詩がある。菖蒲の芽は最初のうちはただの青々とした草のようだが、少し伸びてくると葉先が尖って菖蒲と判明できるようになる。それよりもそれぞれに立てられた名札によって菖蒲の芽であることが分かる。名札に書かれた床しい名前から優雅な花の姿が思われ、更に咲きそろった菖蒲田の華やぎへと思いが至るのである。

仲春の雲ゆつくりと日をのせて

田中 敬子

仲春は新暦の三月にあたる。早春は春とは言えまだ寒く春

の気配が薄いのが、仲春になると気温も上昇し徐々に春めいてくる。空には白い筋雲が拡がり、またふわりとした綿のような雲が浮かぶこともある。ゆつくりと日を載せた雲は仲春ならではの雲だ。彼岸も近い。仲春の雲は彼岸の人々の思いを載せて漂う。

山茶莢の咲き満ちて空狭めたる

植原 恭子

山茶莢は葉の出る前に枝先に球状の黄色い細かな花が咲きだし、咲き揃うと木全体が黄金色になる。私が初めて見た山茶莢の花は実に真ん丸な形をしていて、幼児がクレヨンで描いた太陽のようだった。バックは青空だけの単純な絵だ。

木の花と空との関係は微妙である。白木蓮や辛夷の花の場合は青空を抜けているような感じがあるが、山茶莢の場合は青空の方が退る感じがする。(空狭めたる)に植原さんの発見がある。

その他の印象句

|                |       |
|----------------|-------|
| 二ヶ月の海光に鶯急降下    | 梅澤 惇子 |
| 一つ家によき距離おいて冬籠  | 田辺 文枝 |
| 青空のいちづなりけり梅紅し  | 田中 律子 |
| 花吹雪ひとひら胸に入りけり  | 河上 秀子 |
| 看経に似たる静けさ亀鳴くや  | 眞保 勝江 |
| 句に詠めぬ程に椿の落ちてゐる | 早出 誠治 |
| 春暮れて柱時計が時打てり   | 渡部 順子 |